

平成二十三年度入学試験問題 (前期日程)

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教育実践学専修 を受験する者は、一、二、三 について解答しなさい。

小・中学校教科教育コース 国語教育専修 および 特別支援教育コース 特別支援教育専修 を受験する者は、一、二、四、五 について解答しなさい。

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答時間は、一〇〇分である。
- 四、縦書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

非公開

一

次の文章は、又吉栄喜の小説「ターナーの耳」の一節である。中学三年生の浩志は、交通事故が縁で、米軍兵士ターナーの家でアルバイトをすることになる。村の先輩満太郎が、ターナーを脅し強引に頼んだものであった。そこで浩志は、「アメリカカひまわり」とよばれる植物の世話を任された。本文は、浩志がターナーのハウス(家)を訪ねる場面である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

(日本文藝家協会編『文学2008』、講談社、二〇〇八年、一八四～一八六ページ、抜粋・一部改変)

問一 波線部 a、e の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

a 虚ろ

b 朦朧

c 逸らす

d 供養

e 恭しく

問二 傍線部①・②の本文中における意味として、最も適切なものを次の各群の A、イのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 当てずっぽうに

- A 根拠もなく
- イ 予想をせずに
- ウ 冗談っぽく
- エ 運命に任せて
- オ 突然に

② 突飛な考え

- A 素晴らしい考え
- イ 奇抜な考え
- ウ 非常識な考え
- エ 一時的な考え
- オ 驚愕する考え

問三 文中の 1、4 に入る正しい語句の順序を、次の A、イ、オのうちから選び、記号で答えなさい。

- A 1 目をつぶった      2 目を見開いた      3 目を閉じた      4 目を開けた
- イ 1 目を開けた      2 目を閉じた      3 目をつぶった      4 目を見開いた
- ウ 1 目を見開いた      2 目をつぶった      3 目を開けた      4 目を閉じた
- エ 1 目をつぶった      2 目を閉じた      3 目を開けた      4 目を見開いた
- オ 1 目を閉じた      2 目を開けた      3 目をつぶった      4 目を見開いた

問四 傍線部 A「人間の耳を乾燥させ、ガラス瓶に保管している」とあるが、ターナーが「耳」を保管しているのはなぜか。ターナーの心情を説明しなさい。

問五 傍線部 B「浩志は何か言わなければ大変だと思った」とあるが、なぜそう思ったのか。浩志の心情を説明しなさい。

問六 傍線部 C「浩志は手を口に当てた」とあるが、なぜそうしたのか。浩志の心情を説明しなさい。

二

次の文章は、外山滋比古『思考の整理学』の一部である。よく読んで、以下の各問に答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

非公開

問一 波線部 a と e のことばを漢字で表記しなさい。

a しんせん

b しょうどう

c そうじ

d かたはし

e しんちよう

(外山滋比古、『思考の整理学』、筑摩書房、一九八六年、二二八〜二三三ページ、抜粋・一部改変)



問二

1

3

に入る適切なことばを次の中からそれぞれ選びなさい。

ただし

しかも

しかし

また

それで

問三

2

に入る適切なことばを本文内の用語を用いて答えなさい。

問四

傍線部A「初心忘るべからず」とあるが、ここでいう「初心」とは具体的に何か、本文の主旨に従って答えなさい。

問五

傍線部B「折返し点をまわらないで突っ走るランナー」とは具体的にどういうことをあらわしているのか、本文の主旨に従って説明しなさい。

問六

傍線部C「不易の知識」とは具体的にどのような「知識」か、本文の主旨に従って説明しなさい。

(三) は、学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教育実践学専修 の選択問題

三

次の文章は、小学校国語の文学教材「ごんぎつね」を用いて授業を行った記録である。  
授業記録にある子どもの発言ややりとり、教師の思いや対応を具体的にとりあげ、読みの深まりを生み出すために必要な教師の関わり方についてあなたの考えを述べなさい(四〇〇字以内)。(四〇点)

非公開

非公開

（石井順治・牛山栄世・前島正俊、  
『教師が壁をこえるとき  
ベテラン教師からのアドバイス』、  
岩波書店、一九九六年、  
一二二〇—一二四ページ、  
一部改変）

四

四・五

は、学校教育教員養成課程 小・中学校教科教育コース 国語教育専修および特別支援教育コース 特別支援教育専修 の選択問題

次の古文は、江戸時代前期に兼好法師を主人公として書かれた『兼好諸国物語』の一節である。本文と注をよく読んで、以下の各問に答えなさい。  
(二五点)

非公開

(千本英史責任編集、日本古典偽書叢刊第二巻『兼好諸国物語(抄)』、現代思潮新社、二〇〇四年、二四五～二四六ページ、一部改変)

(注) 1 初瀬——大和国にある長谷寺のこと。

2 二条の大納言入道——兼好の和歌の師である二条為世のこと。

3 三輪——ここでは大和国にある大神神社のこと。

4 檜原折りかざして——檜ひのきは常緑樹。三輪・初瀬周辺の檜の群生地は檜原と呼ばれ、兼好は紅葉とは別にそれを折り取ったのである。

5 岨——山腹の急斜面のこと。

6 尋——長さの単位。両手を広げた長さをいう。

問一 傍線部②「はべり」・⑨「聞こえ」の活用の種類を、「〇行〇〇活用」という形で、それぞれ答えなさい。

問二 空欄③・⑦それぞれに、ク活用形容詞「めでたし」を適切な形に活用させて、入れなさい。

問三 太線部④・⑥・⑧「に」の文法的な違いについて、左の語群から必要なものを選び、適宜言葉を補いながら説明しなさい。

《語群》 ナリ活用形容動詞 完了の助動詞 断定の助動詞 副詞の一部 格助詞 接続助詞

問四 傍線部①「そのよし」が指す内容を、一五字前後の現代語で簡潔に答えなさい。

問五 傍線部⑤「兼好、これを……逃げにけり。」を、助動詞に注意しながら現代語訳しなさい。

問六 A・Bの和歌の贈答がどのような機転を利かせて詠まれているかを、本文の内容を踏まえながら説明しなさい。

五

次の文章は宋の思想家邵雍しやうようが著した『皇極經世書』こうきょくけいせいしよの一節である。本文と語釈をよく読んで、以下の各問に答えなさい。(二五点)

非公開

(川勝義雄、中国文明選第12巻『史学論集』、朝日新聞社、一九七三年、二六三～二六五ページ、一部改変)

【語釈】 ○功德Ⅱ功績と徳行。

問一 傍線部①「若」・⑤「安」の読み方を、それぞれ送りがなも含めてひらがなで答えなさい。

問二 傍線部③「非所以能求之也」をすべてひらがなで書き下し文にしなさい。

問三 空欄 ② に当てはまる漢字一字を本文中から選びなさい。

問四 傍線部⑥「量」の意味内容として最も適切なのは次のどれか。一つ選んで記号で答えなさい。

ア 度量

イ 分際

ウ 数量

エ 思案

オ 推量

問五 傍線部④「昧者」はどのような人か、わかりやすく説明しなさい。

受験番号

問一	a うつろ	b もうろう	c そらす	d くよう	e うやうやしく
問二	① ア	② イ			
問三	オ				
問四	殺した相手の耳を丁寧に保管することによって、悲惨な戦争を忘れたくなかったから。				
問五	浩志は、ターナーがなぜ「ガラス瓶に保管された耳」を自分に見せたか理由が分からない。ターナーは「耳切り魔」ではないかという不安もあり、ナイフを投げたときのターナーの行為を思い出し、不安にかられ、落ち着かない気分になっているから。				
問六	「ガラス瓶に保管された耳」が、ターナーが殺した男の耳だと、確実に分かった今、ターナーをこれ以上刺激してはいけないという後悔から。				

二

問一	a 新鮮	b 衝動	c 掃除	d 片端	e 慎重
問二	1 それで	3 しかし			
問三	飽和状態				
問四	知識が多ければ多いほどよいという価値観。				
問五	知識を増やすことだけにとらわれ、知識が飽和状態に達しているのにもかわらず、さらに知識をため込もうとし、知識の削り落としや精選の原理の発動といった、必要な整理をしないこと。				
問六	その人の持っている関心、興味、価値観によってふるいにかけてられ、整理された知識。				



四

問一	② ラ行変格活用	⑨ ヤ行下二段活用
問二	③ めでたき	⑦ めでたかり
問三	④は格助詞「に」、⑥はナリ活用形容動詞「はるかなり」連用形の活用語尾、⑧は完了の助動詞「ぬ」の連用形である。	
問四	初瀬の観音に参詣したいということ。	
問五	兼好は、これを追いかけて打つというのも、このような身(出家の身)では出来ないので、ひたすら駆け足で逃げたのだった。	
問六	兼好法師は入道への土産として紅葉のすばらしい枝を折り取ったのに、蛇から逃げた勢いで肝心の紅葉は散ってしまった。そこでAの和歌を詠み「枝がすばらしすぎて言葉が出ない」の意を掛けることで、枝に紅葉の「葉」がないことの言い訳にした。その機転に感心した入道は「紅葉の葉よりもあなたの言葉のほうがすばらしい」というBの和歌を、これも機転を利かせて詠んだ。	

五

問一	① もし	⑤ いづ(ず)くんぞ
問二	よくこれをもとむるゆゑ(え)んにあらざるなり。	
問三	天	
問四	イ	
問五	富貴を求めて手に入れた場合には、実力で手に入れたとうぬぼれ、思い通りに手に入らない場合には、人が邪魔するからだと思ひに思うような人。	